

## ポリファーマシー回診の内容

### 対象病棟

整形外科病棟の65歳以上の患者

### これまでの問題点

入院時に病棟薬剤師が実施する持参薬調査ではポリファーマシーが散見されるものの、手術を主として行う整形外科医と薬剤師だけによる積極的な介入は困難。



病棟薬剤師と高齢者医療センターの老年専門医・薬剤師による服用薬剤の処方検討を実施。



カンファレンスの風景

### 入院中の介入方法

#### 【患者抽出】

入院時、5剤以上併用している患者を病棟薬剤師が抽出

#### 【処方検討】

高齢者医療センター医師2名、高齢者医療センター薬剤師1名、病棟薬剤師1名で週1回のカンファレンスで処方検討  
対象薬は「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」を参考に選別した。有害事象の有無については各ガイドライン等を基に判断した。

【処方検討の内容】	・薬剤重複	・対症療法の長期投与
	・検査値の観点	・効果や副作用の観点

- ・検討内容はカルテに記載
- ・病棟担当薬剤師から主治医への報告、患者へのアプローチ  
主治医及び患者の了承が得られたものについて処方を変更した。

#### 【経過確認】

病棟薬剤師が確認、週1回のカンファレンスで検討

#### 【情報提供(退院時)】

対象薬を1剤以上中止・変更した患者に対し、  
処方元へ：高齢者医療センター医師より診療情報提供書発行  
保険薬局へ：病棟担当薬剤師よりお薬手帳に記載

### 退院後の活動

#### 【内服確認】

退院後の処方状況について電子カルテから追跡調査し、確認を行った。

## ポリファーマシー回診の結果

### 対象患者の内訳の処方提案の受け入れ率

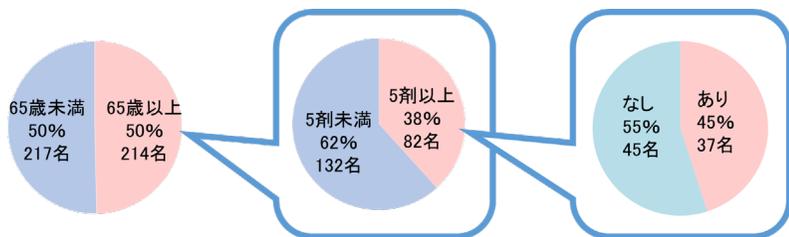


図1 年齢の内訳  
入院患者は431名  
で、その半数が65歳  
以上。

図2 服用薬剤数の内訳  
65歳以上の患者のうち、  
約4割の患者が5剤以上  
服用していた。

図3 中止・変更の必要性  
処方検討の結果、薬剤  
の中止・変更の必要性  
があると判断した患者  
は約半数。

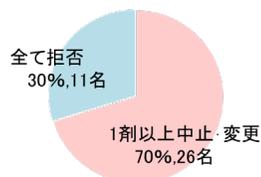
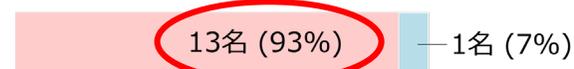


図4 処方提案に対する患者の受け入れ率  
37名中、対象薬を1剤以上中止・変更でき  
た患者は70%(26名)であった。

### 退院後の処方状況

対象薬を1剤以上中止・変更できた患者26名のうち、  
電子カルテより現在の処方状況が確認できた患者は14名。



■ 退院時の変更点が継続されていた患者  
■ 継続されず、入院時の処方に戻っていた患者  
→ 14名中13名は退院時の状態で処方が継続されていた。

多職種による活動は  
ポリファーマシーの解決に有効

薬剤に対する情報共有  
(診療情報提供書やお薬手帳の活用) は  
退院後の処方内容継続に効果的

(1年間の集計結果)